

シャープ、2Q営業利益は前年同期比9.0倍 通期業績予想を上方修正へ

2017年10月27日に行われた、シャープ株式会社2018年3月期第2四半期決算説明会の内容を書き起こしでお伝えします。

2017年度 上期 連結業績概要 (1)

2017年度 上期 連結業績概要(1)

- ・ 売上高、各利益とも、5月26日公表の 上期予想を上回る
- ・ 売上高は、前年同期比で20%を超える 大幅な増収
- ・ 利益も、前年同期から大きく改善、各利益とも黒字に
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、リーマンショック以前の水準にまで回復

SHARP

2

野村勝明氏：まず、2017年度上期の連結業績概要です。

上期の業績は、売上高、各利益とも、（2017年）5月26日に公表いたしました上期予想を上回りました。

売上高は引き続き順調に推移しており、前年同期比では20パーセントを超える増収となりました。

各利益についても、前年同期から大きく改善し、順調に推移しております。

とくに、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、上期予想を大幅に上回り、リーマンショック前となる2008年の上期を超える水準に回復しております。

2017年度 上期 連結業績概要 (2)

2017年度 上期 連結業績概要(2)

	(単位:十億円)		2017年度 上期予想
	2016年度 上期	2017年度 上期 前同比	
売上高	919.6	1,115.1 +21.3%	1,100.0
営業利益	0.0	40.5 516.3倍	37.0
経常利益	-32.0	41.1 -	33.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	-45.4	34.7 -	25.0
平均為替レート			
ドル円	104.30	110.07	110.00
ユーロ円	116.66	124.79	114.00



SHARP

3

2017年の上期の、業績数値をまとめております。

売上高は「アドバンスディスプレイシステム」を始め、各セグメントともに増収となり、前年同期比21.3パーセント増の1兆1,151億円となりました。

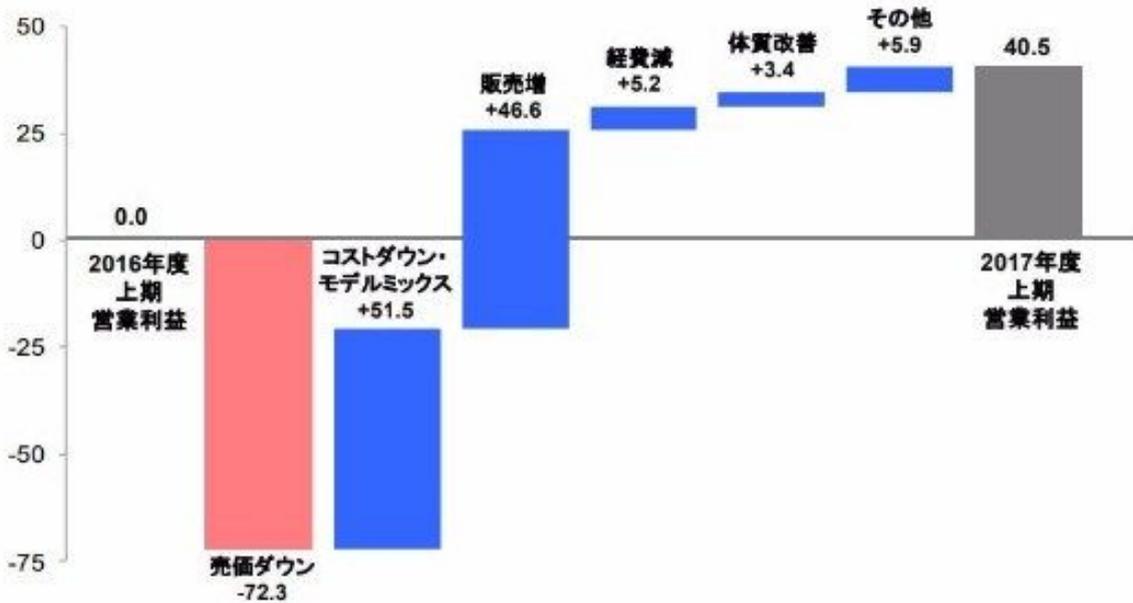
営業利益は、大幅な増収となったアドバンスディスプレイシステムを中心に、前年同期から大きく改善し、405億円となりました。

加えて、営業外損益も改善したことから、経常利益は411億円・親会社株主に帰属する四半期純利益は347億円にそれぞれ大幅に改善し、黒字となりました。

2017年度 上期 営業利益 要因別増減分析 (対前年同期)

2017年度 上期 営業利益 要因別増減分析(対前年同期)

(単位:十億円)



SHARP

4

こちらのグラフは、営業利益の前年同期比での要因別の増減分析です。

ご覧のように、当上期の営業利益は前年同期から大幅に伸長し、405億円となっております。

売価ダウンによる723億円の利益減はあったものの、515億円のコストダウンや、販売増による466億円の利益の増加などがあり、前年同期を大幅に上回る収益を確保することができました。

2017年度 第2四半期 連結業績概要

2017年度 第2四半期 連結業績概要

・2017年度 第2四半期の売上高は前年同期、第1四半期を上回り、収益も大きく改善

(単位:十億円)

	2016年度	2017年度		前同比
	2Q	1Q	2Q	
売上高	496.2	506.4	608.7	+22.7%
営業利益	2.5	17.1	23.4	9.0倍
経常利益	-9.7	17.1	23.9	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-17.9	14.4	20.2	
平均為替レート				
ドル円	101.44	110.10	110.04	
ユーロ円	112.78	120.69	128.88	



次は、2017年第2四半期の連結業績概要です。

売上高は、前年同期から22.7パーセント増となり、第1四半期比でも21.2パーセント増加し、6,087億円となりました。

利益についても、売上高が大幅に増加したことなどから、営業利益は前年同期比9.0倍の234億円、経常利益は239億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は202億円と、順調に推移しております。

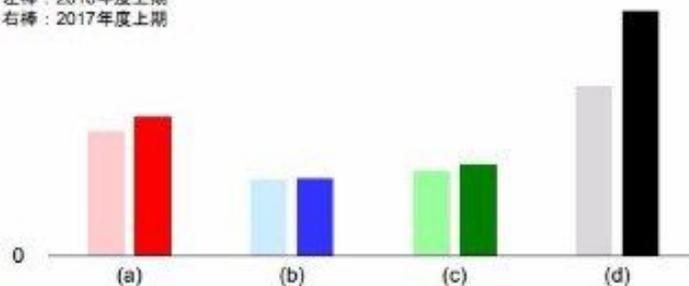
セグメント別売上高

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2016年度	2017年度			前同比
	上期	1Q	2Q	上期	
(a) スマートホーム	263.6	130.2	160.4	290.6	+10.2%
(b) スマートビジネスソリューション	159.6	72.1	90.5	162.7	+1.9%
(c) IoTエレクトロデバイス	177.1	83.2	109.0	192.2	+8.5%
(d) アドバンスディスプレイシステム	357.5	249.6	271.9	521.6	+45.9%
小計	958.0	535.3	631.9	1,167.2	+21.8%
調整額	-38.3	-28.8	-23.1	-52.0	-
合計	919.6	506.4	608.7	1,115.1	+21.3%

左棒：2016年度上期
右棒：2017年度上期



※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

6

次のスライドは、セグメント別売上高の一覧になります。

ご覧のとおり、各セグメントともに前年同期を上回っております。

スマートホーム (a) の上期の売上高は、前年同期比10.2パーセント増の2,906億円となりました。

フラグシップモデル「AQUOS R」を中心に携帯電話が増収となったことに加え、コードレス掃除機「RACTIVE Air」などの掃除機が伸長しました。また、PCIや洗濯機も好調でした。

また、エネルギーソリューション事業について、EPCなどが底堅く推移いたしました。

スマートビジネスソリューション (b) は、サイネージが好調であったことに加え、販路投資拡大の効果があり、海外で複写機の売上が増加したことから、前年同期比1.9パーセント増の1,627億円となりました。

IoTエレクトロデバイス (c) は、スマートフォン向けカメラモジュールや半導体・レーザーなど、独自デバイスの販売増により、前年同期比8.5パーセント増の1,922億円となりました。

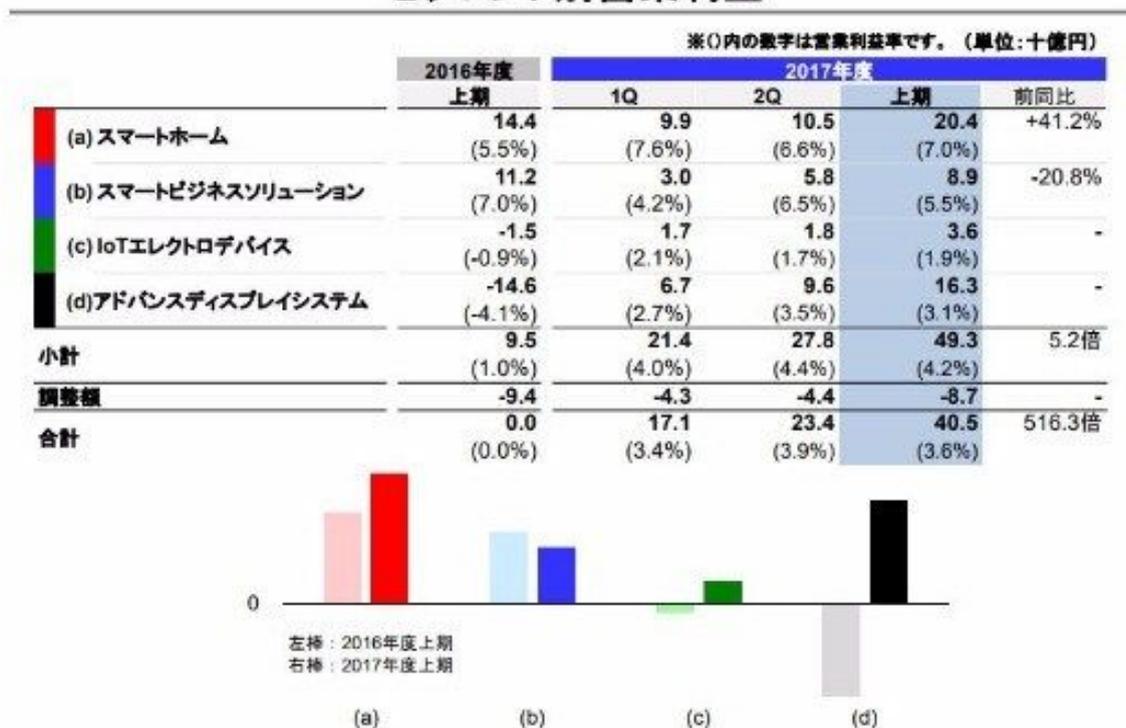
アドバンスディスプレイシステム (d) は、前年同期比45.9パーセント増の5,216億円と、売上が大幅に伸長しました。

液晶テレビ事業は、中国での大幅な販売拡大に加え、欧州やアジアでも売上が増加したことから、増収となりました。

ディスプレイ事業は、大手顧客向けを中心に、スマートフォン用パネルやタブレット用中型パネルが好調に推移し、車載用・ゲーム用パネルも伸長したことから、前年同期を大きく上回りました。

セグメント別営業利益

セグメント別営業利益



SHARP

7

次は、セグメント別営業利益の一覧です。

各セグメントとも、黒字を継続いたしました。スマートホーム (a) の営業利益は、前年同期比41.2パーセント増の204億円となりました。

新製品・独自商品の投入以来、商品ラインナップの拡充による増収効果、コストダウン・経費削減の取り組みにより、大幅な増益となりました。

スマートビジネスソリューション (b) は、価格下落の影響などから前年同期比は下回ったものの、コストダウンや経費削減に取り組んだこともあり、89億円の黒字を確保いたしました。

IoTエレクトロデバイス (c) は、売上増に加え、モデルミックスの改善や、コストダウンの効果もありました。その結果、前年同期の15億円の赤字から、36億円の黒字となりました。

アドバンスディスプレイシステム (d) は、赤字であった前年同期から大きく改善し、163億円の黒字となりました。

液晶テレビ事業は、価格下落の影響があったものの、中国をはじめとする好調な販売により、黒字を継続しました。

ディスプレイ事業は、中型パネルや車載用パネルを中心とした売上増と、これにともなうカテゴリーシフト、さらにはコストダウンの推移などにより大幅に改善いたしました。

営業外損益・特別損益・法人税等の概要

営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2016年度	2017年度			
	上期	1Q	2Q	上期	前同 増減額
営業利益	0.0	17.1	23.4	40.5	+40.4
営業外損益	-32.1	+0.0	+0.4	+0.5	+32.7
内: 為替差益	+0.4	+2.3	+3.3	+5.7	+5.2
支払利息	-4.0	-1.2	-1.2	-2.4	+1.5
持分法による投資損益	-19.1	+0.5	+0.3	+0.9	+20.0
経常利益	-32.0	17.1	23.9	41.1	+73.2
特別損益	-2.4	-0.7	+0.0	-0.6	+1.7
内: 投資有価証券売却損益	+1.3	-	-	-	-1.3
段階取得に係る差損	-	-0.9	-0.5	-1.4	-1.4
減損損失	-5.7	-	-	-	+5.7
税引前利益	-34.5	16.4	23.9	40.4	+74.9
法人税等 他	-10.8	-1.9	-3.7	-5.6	+5.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-45.4	14.4	20.2	34.7	+80.1

SHARP

8

次のスライドは、主な営業外損益・特別損益・法人税等の概要でございます。2017年度の上期の営業外損益は、為替差益が増加したこと、構造改革の効果にともない支払利息が減少したことに加え、大幅な赤字であった持分法による投資損益が黒字化しました。このことから、前年同期に比べ大きく改善しました。

なお、特別損益につきましては、段階取得に係る差損があったものの、前年同期には発生した減損損失がなかったこともあり、改善しております。

連結貸借対照表推移

連結貸借対照表推移

- ・2017年9月末の純資産は、6月末の3,318億円から3,577億円に増加
- ・自己資本比率も18.2%に上昇

	2016年度			2017年度				2016年度			2017年度		
	3月末	6月末	9月末	3月末	6月末	9月末		3月末	6月末	9月末	3月末	6月末	9月末
現金	482.1	466.0	435.4	支払手形・買掛金	350.5	376.0	405.5						
受取手形・売掛金	375.5	414.1	478.9	短期借入金	113.5	114.5	115.7						
たな卸資産	217.8	219.6	186.0	1年内社債	0.0	0.0	0.0						
その他	118.1	116.7	131.7	その他	337.5	312.7	338.7						
流動資産計	1,193.7	1,216.5	1,232.3	流動負債計	801.6	803.3	860.1						
有形固定資産	349.6	358.2	402.6	社債	40.0	40.0	40.0						
無形固定資産	42.3	42.2	45.1	長期借入金	490.3	490.2	490.2						
投資その他資産	187.9	191.1	208.7	その他	133.9	142.8	140.7						
固定資産計	579.9	591.7	656.5	固定負債計	664.2	673.0	671.0						
繰延資産	0.0	0.0	0.0	純資産	307.8	331.8	357.7						
資産合計	1,773.6	1,808.3	1,888.9	負債・純資産合計	1,773.6	1,808.3	1,888.9						
期末日レート				自己資本比率	16.6%	17.5%	18.2%						
ドル円	111.20	111.00	111.74										
ユーロ円	118.28	126.45	131.31										

SHARP

9

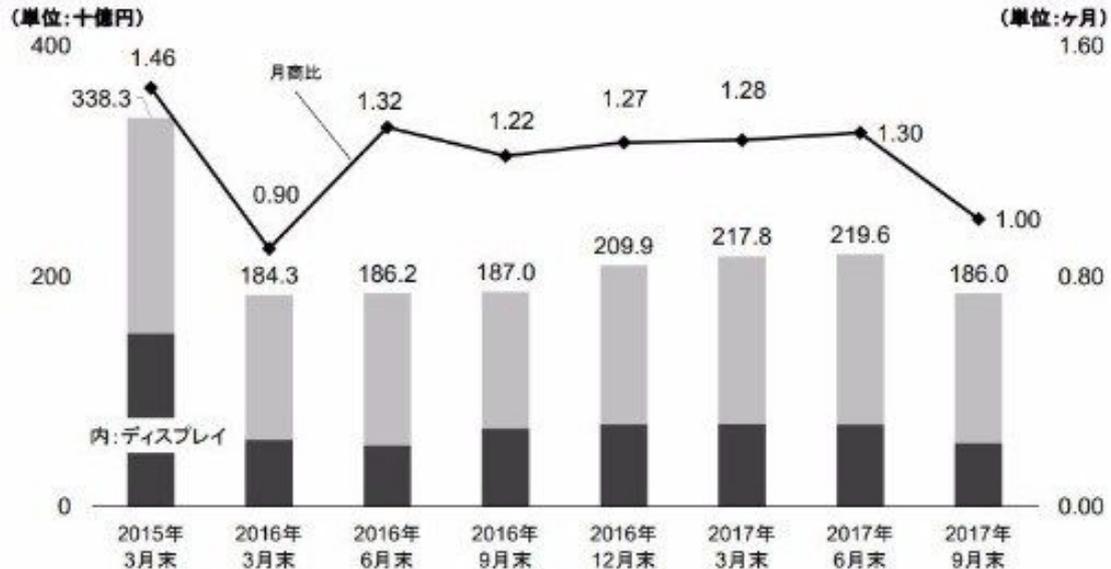
次のスライドは、貸借対照表の推移です。2017年度第2四半期末の現金は、収益が順調に回復した一方、事業拡大に向けた積極的な投資を行いました。この結果、第1四半期末の4,660億円から、4,354億円へと減少しております。

2017年度第2四半期末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益が黒字であったことなどから、第1四半期末に比べ259億円増加し、3,577億円となりました。自己資本金についても、第1四半期末の17.5パーセントから、（第2四半期末は）18.2パーセントに上昇しております。

たな卸資産の推移

たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、2017年6月末の2,196億円から、1,860億円に減少
- ・今後の販売計画等を勘案し、引き続き適正な在庫水準を維持



SHARP

10

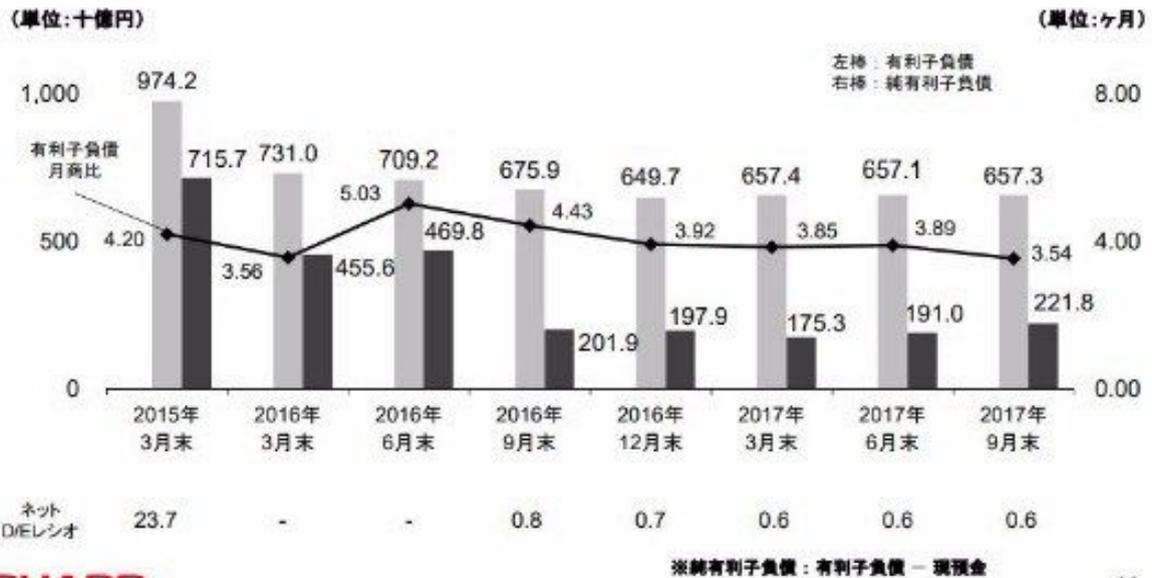
次のスライドは、たな卸資産の推移です。2017年度第2四半期末のたな卸資産は、第1四半期末の2,196億円から1,860億円に減少しました。月商比は0.3ヶ月減の、1.00ヶ月となりました。

第3四半期以降の需要・販売リスクなどを適時把握し、引き続き適正な在庫水準を維持してまいります。

有利子負債の推移

有利子負債の推移

- ・2017年9月末の有利子負債は、6月末からほぼ横ばいの、6,573億円となる。
月商比では3.89ヶ月から3.54ヶ月に
- ・純有利子負債[※]は、1,910億円から2,218億円に増加



SHARP

11

次のスライドは、有利子負債の推移です。2017年度第2四半期末の有利子負債は、為替変動の影響で、外貨建借入の円貨換算額が増加したこともあり、第1四半期末から若干増加したものの、ほぼ横ばいの6,573億円となります。

純有利子負債は、現預金の減少などにより308億円増加し、2,218億円となりました。

引き続き、在庫の適正化や効率的な設備投資の実施に努め、キャッシュフローの改善を図ります。

2017年度 通期 連結業績予想

2017年度 通期 連結業績予想

- ・2017年度 上期の実績を勘案し、通期の業績予想を見直し
- ・営業利益、経常利益、親株主に帰属する当期純利益を上方修正

(単位:十億円)

	2017年度				2017年度 (5/26公表予想)		
	上期	下期予想	通期予想	前年比	上期予想	下期予想	通期予想
売上高	1,115.1	1,394.8	2,510.0	+22.4%	1,100.0	1,410.0	2,510.0
営業利益 (利益率)	40.5 (3.6%)	52.4 (3.8%)	93.0 (3.7%)	+48.9%	37.0 (3.4%)	53.0 (3.8%)	90.0 (3.6%)
経常利益 (利益率)	41.1 (3.7%)	45.8 (3.3%)	87.0 (3.5%)	3.5倍	33.0 (3.0%)	46.0 (3.3%)	79.0 (3.1%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (利益率)	34.7 (3.1%)	34.2 (2.5%)	69.0 (2.7%)	-	25.0 (2.3%)	34.0 (2.4%)	59.0 (2.4%)

SHARP

12

次のスライドをご覧くださいと思います。(2017年度) 上期の実績を勘案し、通期の業績予想を見直しております。

売上高は、経済動向など不確定な要素もあることから、前回予想を据え置き、前年度比22.4パーセント増の、2兆5,100億円としております。

一方、利益については上期の実績をふまえ、営業利益を930億円、経常利益を870億円、親会社株主に帰属する当期純利益を690億円に、それぞれ上方修正しております。

下期につきましても、これまでの流れを止めることなく事業拡大を図り、着実に通期の業績予想を達成するとともに、利益率も上期を上回るように、さらに収益力の改善に取り組んでまいります。

ご清聴、ありがとうございました。